



暑さの続く折、皆様いかがお過ごしでしょうか？30度を超える暑さが阿蘇でも続いた今年の夏。私エリは、念願だった自宅での出産で、念願だった女の子を無事に授かりました！

予定日より一週間早い8月10日未明。陣痛が本格化してから約4時間。破水をしてから2時間半。周りからは「超」がつくほど安産だったと言われますが、40歳を過ぎてからの出産はやっぱりキツイ。それなりの覚悟はしていましたが、お産中も、そして産後も、30代だった上の3人とはキツさが違います…。とはいえ、高齢出産ということでリスクも大きかった中、健やかな上に待望の女兒を授かったことの幸せをじんわりと噛みしめながら、産後の回復につとめています。コメ作りの話とは無関係になりますが、今月は出産の話をもう少し詳しくご報告させていただきます。

私が「自宅出産」という選択肢について初めて知ったのは、最初の妊娠をする前でした。友人に誘われて熊本市内で開かれた助産師さんの講演会に参加。病院でのお産は、確かにリスク回避という意味では当然の選択なのですが、分娩台に固定された状態で産むのはお母さんにとっても生まれてくる赤ちゃんにとってもストレスが大きいこと、また生まれた直後からライトや他人の手（お医者さんや看護婦さんたち）にさらされるのは、出産と言う大仕事を終えた母子がリラックスする時間を削ってしまっていることなどを聞きました。その助産師さんは、母子が一番リラックスできる自宅での出産を介助したくて、大病院を辞めて開業されたとのこと。「もし妊娠したらこの人に取り上げてもらいたい！」と心に誓ったのでした。



ところが、最初の妊娠で双子、2回目の妊娠で逆子。どちらもリスクが大きすぎて、自宅では産めない状況でした。双子も逆子も、帝王切開をせずに自然分娩で産んだ私は、「それだけで本が1冊書ける」と言われるほどですが、1つだけ心残りだったのは、自宅出産ができなかったこと。その願いが10年越して叶ったのです！

築100年を超える大津家本家の「座敷」と呼ばれる仏壇のある部屋で、薄暗い照明の中、だんだん強くなる陣痛を逃しながらも、「まるで時代劇だなあ」と我ながら可笑しくなってみたりして。そして丑三つ時。いよいよ出産という段階で息子3人を揺り起こし、助産師さんの優しい声に促されてクライマックスのいきみ。家族全員に加えて、仏壇のご先祖様たちが見守る中、元気な産声が響き渡りました。





頭が見え始める時から胎盤が出てくるまでの一部始終をしっかりと見ていた息子たち。命の大切さを胸に刻んでくれたことと思います。この世に出てくるといふ大仕事を終え、生まれた直後から約2時間を私の胸の上で放心状態のまま過ごした赤ちゃん。すっかり落ち着いてから、体重や身長を測定します。母子の絆づくりと疲労回復を最優先させてくれたのです。大津家の屋根の下で赤ちゃんが生まれたのは、実に約60年ぶりとのこと。産みの苦しみは病院でも自宅でも変わらないと思いますが、本当に本当に「良いお産」でした。

家族で相談し、生後3日目に「里咲（りさ）」と名付けました。お兄ちゃんたちの可愛がりぶりは予想以上で、遊んでは見に来、しばし眺めてはまた遊び。微笑ましい限りですが、「ほらりさ、クワガタだよ!」「(泥んこの手で)抱っこしたい!」などなど、我が家ならではのワイルドな環境。たくましくなりそうです…。



女の子が欲しいといふかねてからの願いが叶った今、これまで以上に私たちの果たすべき役目を自覚して、美しい農村や環境を守り、今より少しでもよい社会にしていけるよう、努力を続けたいと思います。新メンバーを加えた大津家一同、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。



さてさて新米の発送まで約一か月。後回しになってしまいましたが、田んぼの様子をお知らせします。

アイガモやコイ、それから除草機を使つての除草・抑草作業を終えた梅雨明けの田んぼ。一株3~5本程度で植え付けた稲が20本位まで増えたところで、「中干し」と呼ばれる段階に入ります。田んぼの水を一旦抜き、土を一度乾かします。こうすることで、稲の茎数がそれ以上に増えることを抑え、出てくる稲穂に養分を集中させます。これ以降は茎の数が増えても、稲刈りまでには実るのが間に合いません。また、土を固めることで、今後の稲刈りやワラの収納などが行いやすくなります。秋にはカラッと乾いて欲しいのです。



その中干しを終えた田んぼの稲からは、次々に稲穂が出てきます。毎日伸びていく稲穂を見るのはウキウキと心が沸き立つ一方、これからしっかりと実が入るかが心配になります。さて、みなさんはお米の「花」をご存知でしょうか?この通信では毎年紹介するので、すでに詳しい方もいらっしゃると思います。私たちも就農したての頃に、花が咲き受粉して実になる、という当たり前すぎて忘れていたことに気づかされました。写真のように小さくて白い花。たった1日で役割を終え、散っていくものですが、この一瞬ともいえる時がとても重要です。もしこの時期に台風などで荒天が続けば、受粉率が悪くなり、収量も減ってしまいます…。

受粉が済むと、そこから稲は「登熟期」といわれる、いよいよお米を作っていく段階に。だんだん頭を垂れていく稲穂を見ると、自然と笑顔になってくるもの。さあ、稲刈りまであと1か月。これまでの仕事が報われるかどうか…、これからの天気にもかかっています。台風など来ませんように、皆様のご健康と一緒に祈ります!

